

【2020年卒 TOPIC】

**企業と学生がより理解し合うことで、就職予定先に対する不安は減る。
条件面だけでなく、自らの成長や働く人と合うかという視点がより重要**

株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：佐藤 学）のよりよい就職・採用のあり方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：増本 全）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

「理解できている、理解されている」という実感を持てているか考えてみましょう。



所長 増本 全

今回は学生の就職予定先への不安についてレポートします。2020年4月に就職予定だった学生に、大学卒業時点での就職予定先に対する不安の有無を聞くと「不安がある・計」は49.9%に対し「不安がない・計」は26.4%でした。そこで、不安がある、ないを比べると、「就職先への理解」「就職先からの理解」「就職先への納得度」の各項目において「あてはまる」と感じる学生の割合に大きく差が見られました。就職予定先についてははっきりと「理

解できている、理解されている」という実感を持てるかどうかで、入社前に不安を感じるかが変わってきます。理解度や納得度が「どちらかというにあてはまる」から「あてはまる」に変わるために必要なことは人により異なりますが、大事なことは自ら「理解できている」と思えるまで行動できるかです。不安がある、ないを比べると、就職先の決め手にも差が見られます。不安がある学生は、福利厚生や地域など条件面がより高いのに対し、不安がない学生は、自らの成長や、働く人が合っているかをより重視している様子が見られます。また、転職意向のある学生が、転職したいと考える理由も比べてみました。最も高い理由は不安がある、ない、共に「キャリアアップを実現するため」でした。しかし不安がある学生は、不安がない学生に比べ「働きやすい環境で仕事がしたい」「内定先に不満がある」など条件面の理由や、「なんとなく」が高くなりました。キャリアアップのための転職は選択肢の一つだと思いますが、就職予定先に対する不安が転職意向につながってしまうのは望ましくないと考えます。納得して仕事と向き合うためにも、学生と企業相互の理解を深めていくことが重要です。

就職予定先に対する不安

大学生_全体（就職志望者・民間企業への就職確定者/単一回答） ※大学院生除く（%）

	不安がない・計	不安がある・計	どちらともいえない
●凡例			
2020年卒	26.4	49.9	23.7
2019年卒	27.6	53.3	19.1
2018年卒	24.2	57.5	18.2

※ 不安がない・計：「就職予定先に対する不安がない」に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した合計

※ 不安がある・計：「就職予定先に対する不安がない」に「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」と回答した合計

本件に関する
お問合せ先

株式会社リクルートキャリア 広報部 社外広報グループ
TEL：03-3211-7117 MAIL：kouho@waku-2.com

就職先に対する自己認識

不安有無で「あてはまる」と回答する割合に差がある

・「確定している就職先のことを理解できている」では、不安がない・計は「あてはまる」が32.2%であったのに対し、不安がある・計は9.5%と、22.7ポイントの差があった。

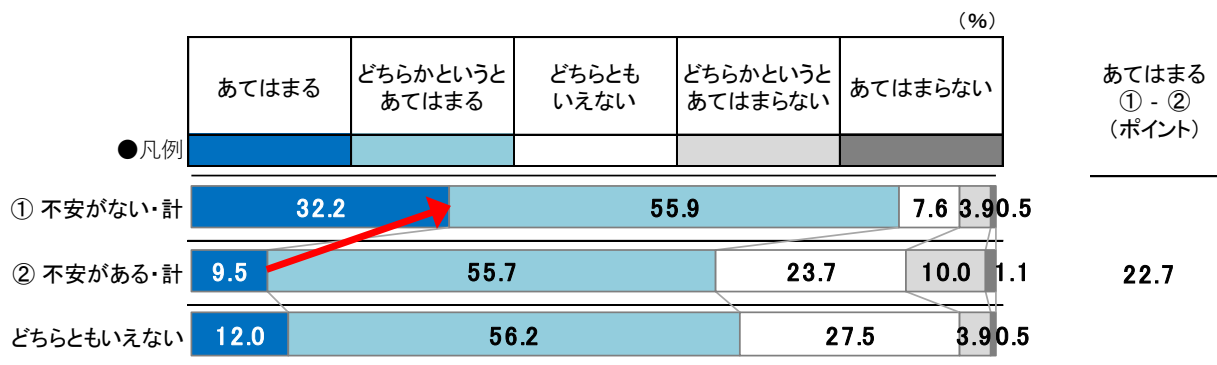
・「確定している就職先は、自分のことを理解してくれていると感じる」では、不安がない・計は「あてはまる」が30.5%であったのに対し、不安がある・計は7.2%と、23.3ポイントの差があった。

・「入社予定企業や組織等に就職することに納得した」では、不安がない・計は「あてはまる」が58.7%であったのに対し、不安がある・計は34.8%と、23.9ポイントの差があった。

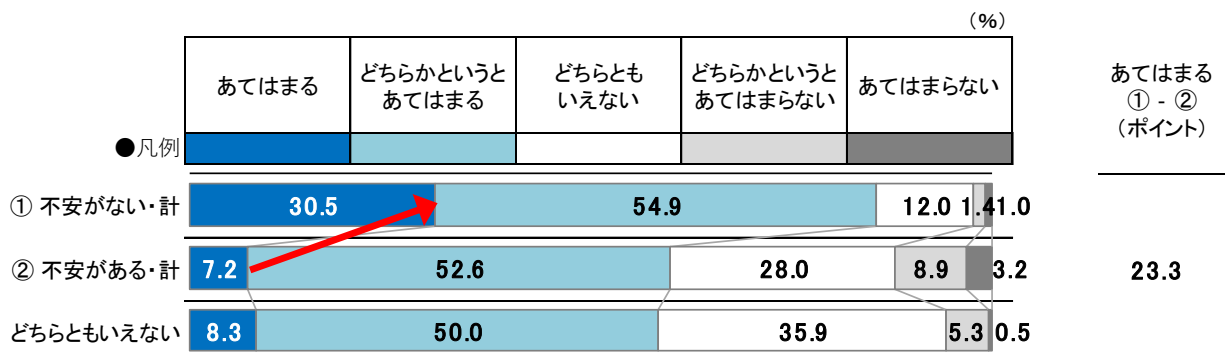
就職先に対する自己認識

大学生_全体（就職志望者・民間企業への就職確定者/単一回答）※大学院生除く

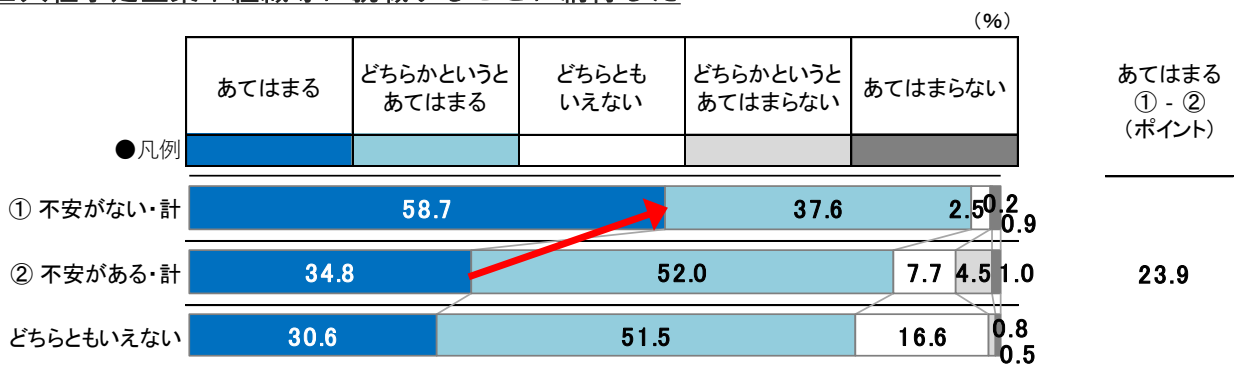
■ 確定している就職先のことを理解できている



■ 確定している就職先は、自分のことを理解してくれていると感じる



■ 入社予定企業や組織等に就職することに納得した



※ 不安がない・計：「就職予定先に対する不安がない」に「あてはまる」「どちらかというあてはまる」と回答した合計

※ 不安がある・計：「就職予定先に対する不安がない」に「あてはまらない」「どちらかというあてはまらない」と回答した合計

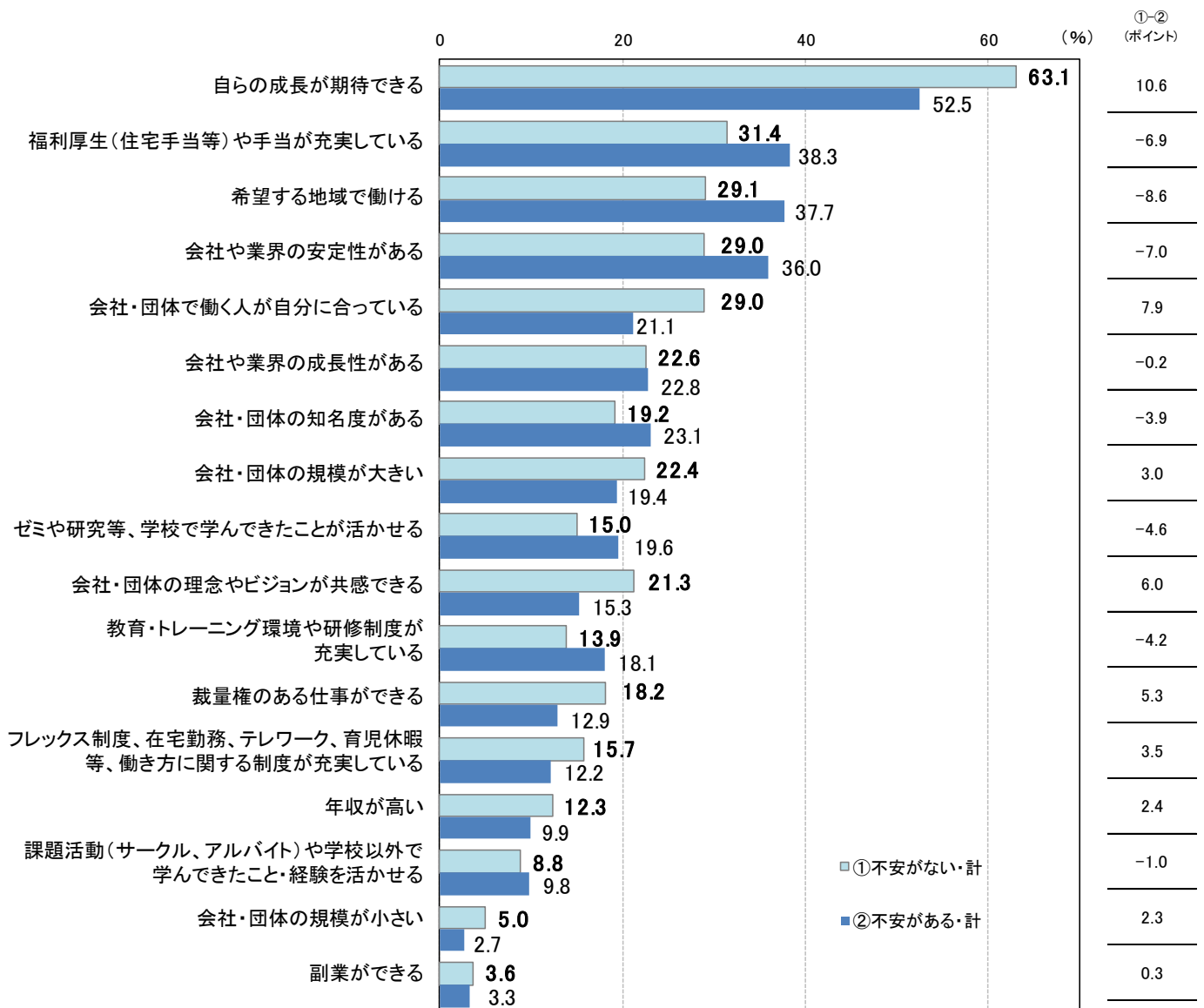
就職先を確定する際に決め手となった項目

不安がある、不安がないで決め手となった項目に差

- ・就職予定先に対する不安の有無別に「就職先を確定する際に決め手となった項目」を比べた。
- ・不安がない・計が、不安がある・計より高かったものは、差が大きいものから順に「自らの成長が期待できる」「会社・団体で働く人が自分に合っている」「会社・団体の理念やビジョンが共感できる」などであった。
- ・不安がある・計が、不安がない・計より高かったものは、差が大きいものから順に「希望する地域で働ける」「会社や業界の安定性がある」「福利厚生(住宅手当等)や手当が充実している」などであった。

就職先を確定する際に決め手となった項目（就職予定先への不安有無別）

大学生_全体（就職志望者・民間企業への就職確定者/複数回答）※大学院生除く



※「その他」を含まない

※ 不安がない・計：「就職予定先に対する不安がない」に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した合計

※ 不安がある・計：「就職予定先に対する不安がない」に「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」と回答した合計

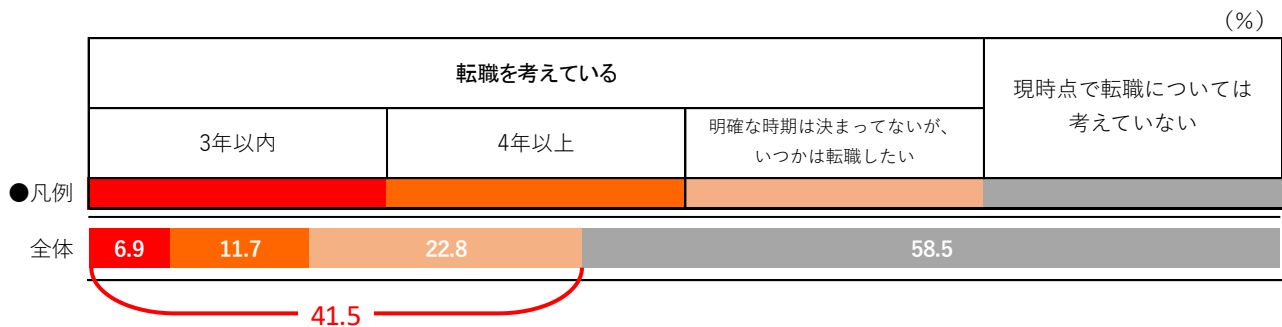
転職意向

就職予定先に対する転職意向は不安の有無によって差がある

- ・全体で見ると「転職を考えている」41.5%であるのに対し、「現時点で転職については考えていない」は58.5%であった。
- ・転職を考えている時期については「3年以内」が6.9%、「4年以上」が11.7%、「明確な時期は決まっていな
いが、いつかは転職したい」が22.8%であった。
- ・就職予定先に対する不安の有無別に、転職意向を見たところ、「不安がある・計」での転職意向は47.5%で、「不安がない・計」では36.1%であった。

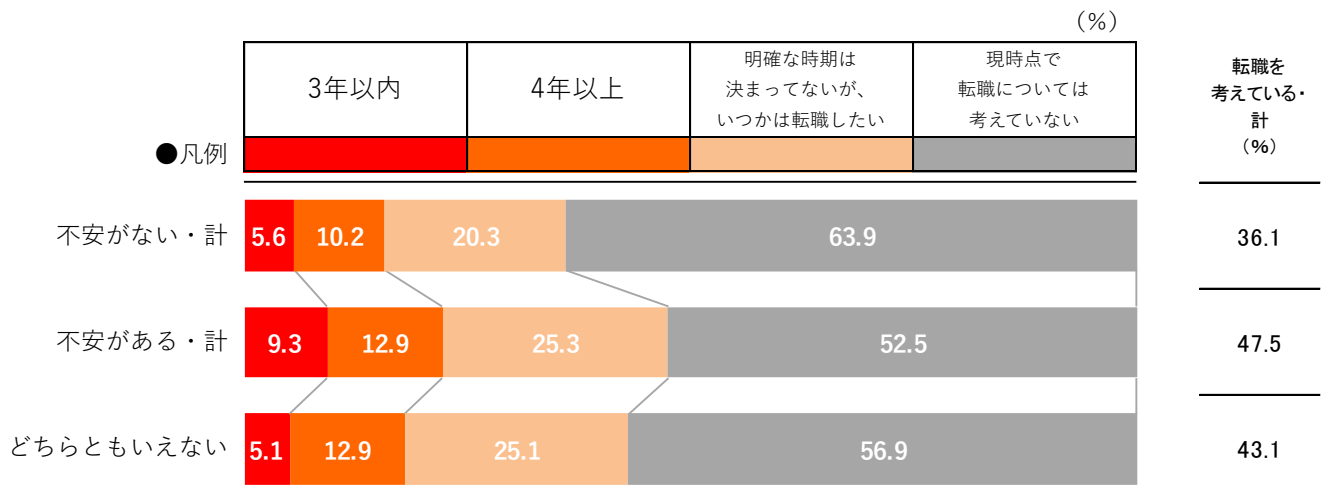
入社前の転職意向

大学生_全体（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



就職予定先に対する不安と転職意向

大学生_全体（就職志望者・民間企業への就職確定者/単一回答）※大学院生除く



※ 不安がない・計：「就職予定先に対する不安がない」に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した合計

※ 不安がある・計：「就職予定先に対する不安がない」に「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」と回答した合計

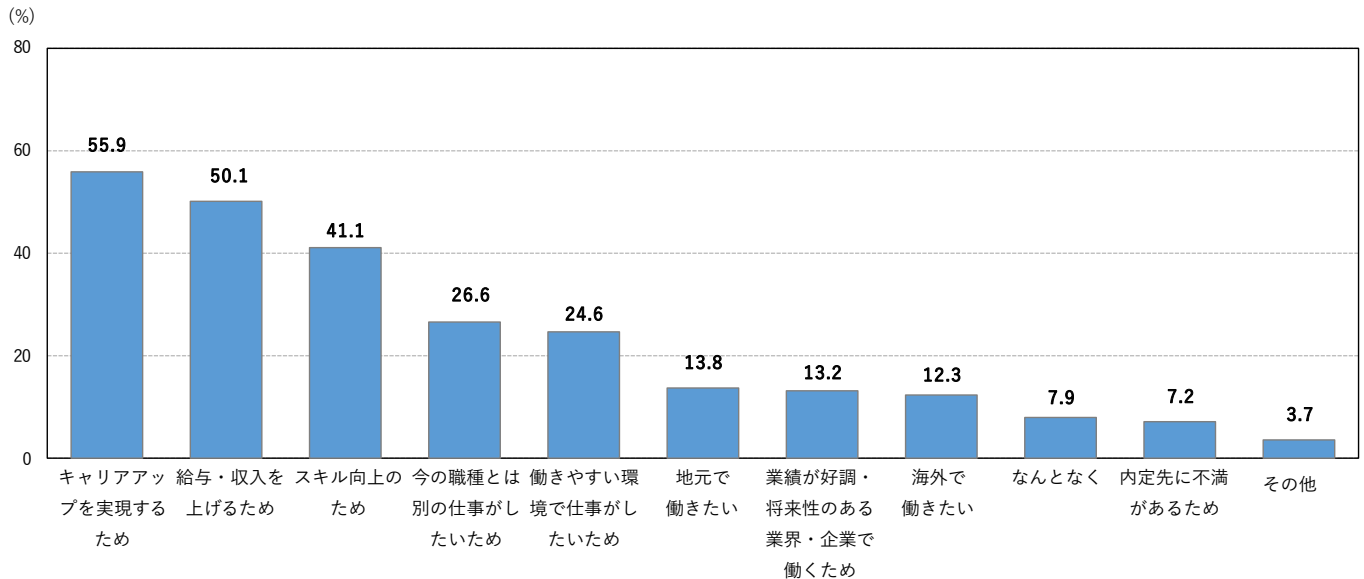
転職を考えている理由

転職を考えている理由は「キャリアアップを実現するため」が約6割で最も高い

- ・転職意向がある学生の理由を見ると「キャリアアップを実現するため」が55.9%と最も高かった。
- ・「就職予定先に対する不安の有無別」に見ると最も差が大きかったのは「働きやすい環境で仕事がしたいため」で、「不安がある」と回答した学生が19.4ポイント高かった。

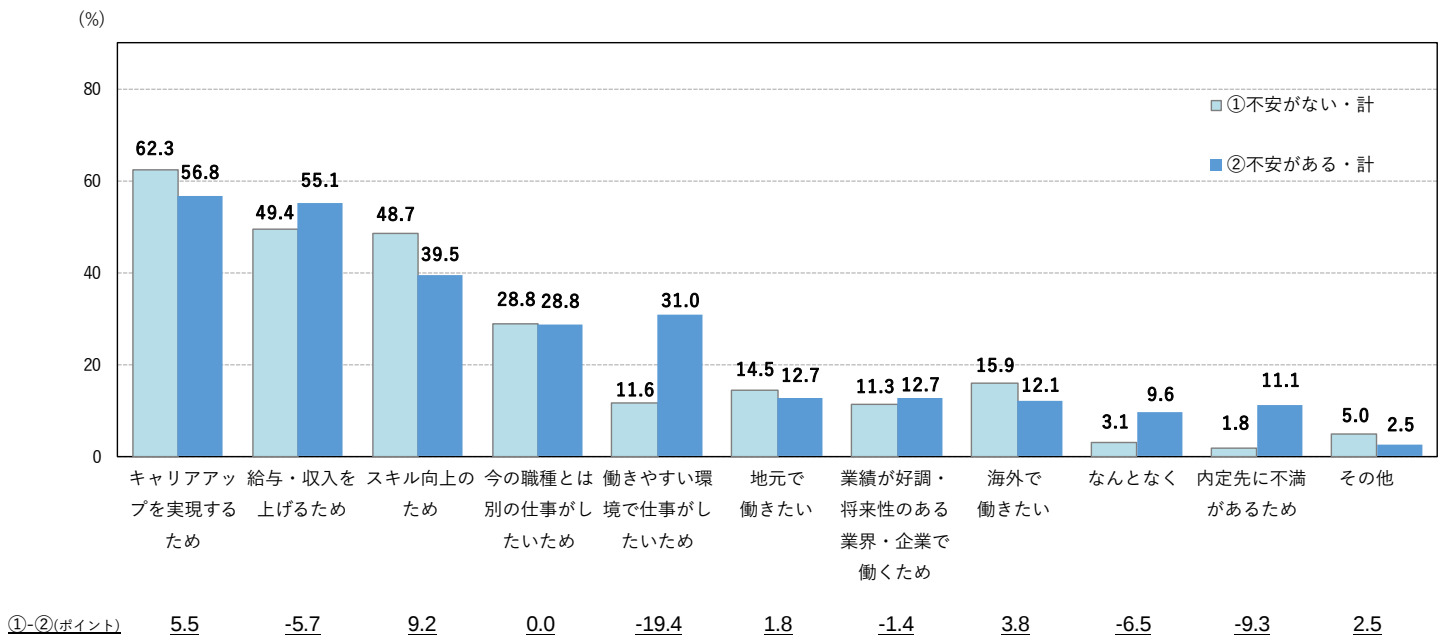
転職を考えている理由

大学生_全体（就職志望者・転職意向あり/複数回答）※大学院生除く



就職予定先に対する不安の有無別の転職を考えている理由

大学生_全体（就職志望者・民間企業への就職確定者・転職意向あり/複数回答）※大学院生除く



※ 不安がない・計：「就職予定先に対する不安がない」に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した合計

※ 不安がある・計：「就職予定先に対する不安がない」に「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」と回答した合計

調査概要

調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査方法 | インターネット調査

集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体をもとに、実際の母集団の構成比に近付けるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2020年卒：2020年3月度（卒業時点）

調査対象 | 2020年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2020』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生6,369人（内訳：大学生5,246人/大学院生1,123人）

調査期間 | 2020年3月15日～3月19日

集計対象 | 大学生 1,118人/大学院生 359人

※リクナビ：株式会社リクルートキャリアが運営している、就職活動を支援するサイト
<https://job.rikunabi.com/2021/>

2019年卒：2019年3月度（卒業時点）

調査対象 | 2019年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2019』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生5,167人（内訳：大学生4,038人/大学院生1,129人）

調査期間 | 2019年3月15日～3月19日

集計対象 | 大学生 1,087人/大学院生 469人

2018年卒：2018年3月度（卒業時点）

調査対象 | 2018年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2018』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生5,925人（内訳：大学生4,845人/大学院生1,080人）

調査期間 | 2018年3月16日～3月22日

集計対象 | 大学生 1,272人/大学院生 460人

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況をもとに、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者 + 志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

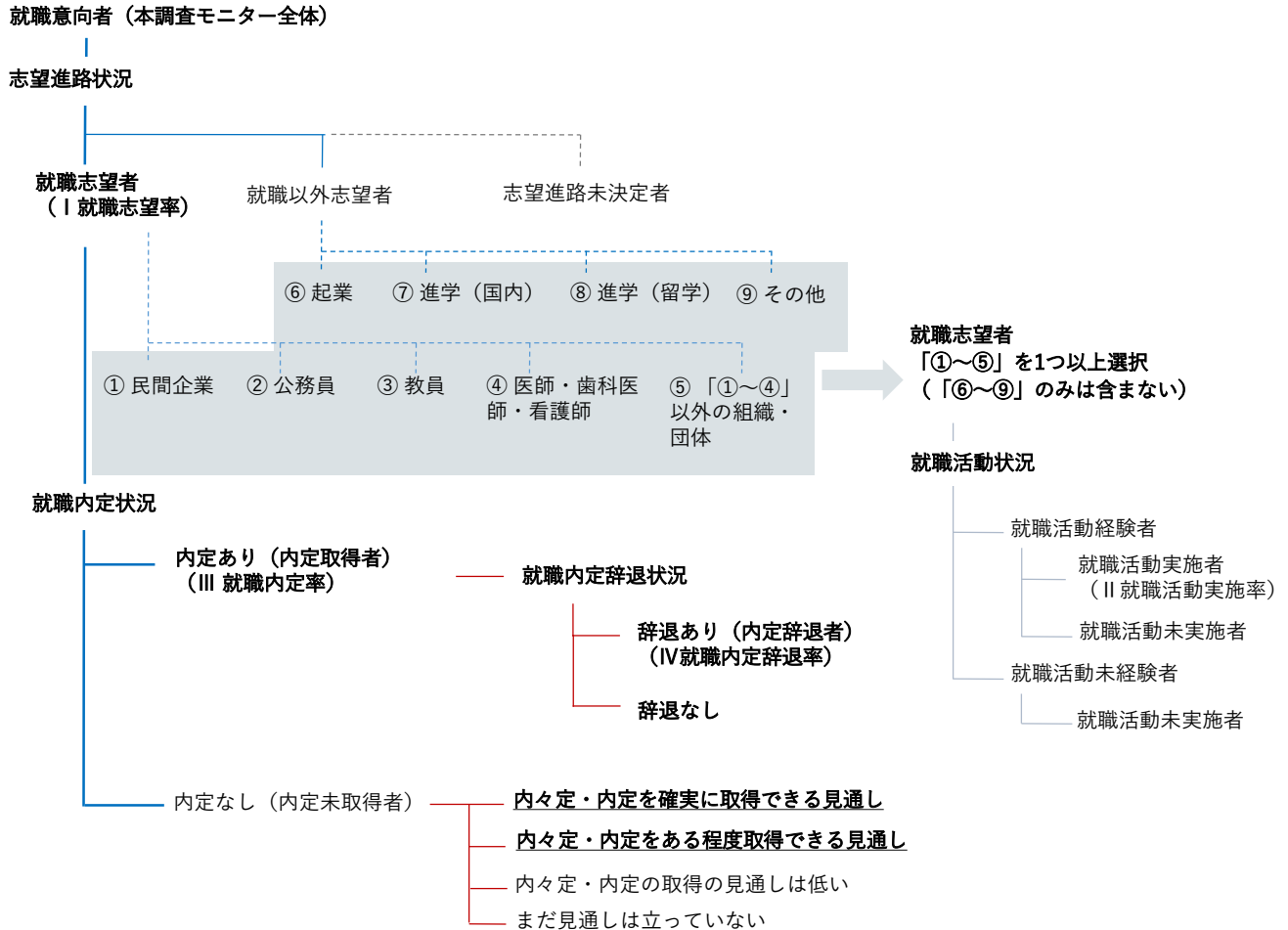
本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法> 【時点：「当該月1日時点」】

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

● 就職意向者	=	当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
● 就職志望者	=	当月、就職を志望している者
● 就職活動実施者	=	当月、就職活動を実施している者 (※)
● 就職活動経験者	=	当月までに就職活動の経験がある者
● 就職内定取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験のある者
● 就職内定未取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
● 進路確定者	=	当月、進路が確定している者
		進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
● 就職内定辞退者	=	当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

≪地域区分の内訳≫

○ 関東	=	東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
○ 中部	=	静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
○ 近畿	=	京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
○ その他地域	=	「関東」「中部」「近畿」以外の地域

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者